

ヘルスメーター

サル痘^{とう}

サル痘はサル痘ウイルスの病原体によって感染します。この病原体は1958年秋、カニクイザルから最初にウイルスが確認されたことから名付けられました。感染経路は、アフリカに生息するリス・ネズミ等のげっ歯類、その他サル・ウサギ等ウイルスを保有する動物との接触で感染した人、また感染した人や動物の皮膚・体液・血液との接触、患者と長時間対面で接近し飛沫を浴びる、患者が使用した寝具等との接触等により感染します。よって、接触感染・飛沫感染・空気感染(エアロゾル化)が報告されています。1970年に初めてアフリカでヒトへの感染が報告され、日本では2022年7月25日に1例目が報告されました。今では国内で100人超の患者がいます。

サル痘の症状

サル痘に感染すると、発熱・頭痛・リンパ節が腫れる等の前駆症状が現れ、その後、発疹が認められます。前駆症状の発熱が出て、約5日間経過後、発疹が発症していなければ、サル痘への罹患^{りがん}に心配はありません。症状出現まで潜伏期間は通常6～13日とされています。発疹は顔面・四肢に多く、その他全身にも出現します。2～4週間持続して、大体は自然軽快しますが、全身状態の悪い人や小児は重症化することがあります。現在報告されている患者の約9割は男性ですが、女性・小児への感染報告もあります。

サル痘を疑う症状が見られた場合、最寄りの医療機関・保健所に相談してください。なお、医療機関を受診する際には、マスク着用・発疹部位をガーゼ等で覆う等の対策をしたうえで受診してください。